



【勝利の人生のため(2) “真理の帯を締めましょう!”】

聖書本文: エペソ人への手紙6:10-14節・暗唱聖句: ピリピ人への手紙3:13-14節

説教者: 鄭南哲牧師
(Rev. Jung nam-chul)

<1. 復習—先々週のおさらい>

クリスチャンたちにも霊的戦いがあり、苦難もあることを申しました。だれと戦うためですか。悪魔と天にあるもろもろの悪霊たちとの戦いのためです。決して教会の家族、人々との戦いではないことだと申しました。われらが戦うべき対象がだれであるかをかならず覚えなければならないことを伝えました。そして、神様はご自分の子供である私たちが強められ、彼らとの戦いにおいても勝利するためには神様のすべての武具を身につけるようにと命じられました。

今日のクリスチャンたちは目に見えない神様を信じますと言いながらしきりに目に見える形の何かを求めているようです。イエスキリストの恵みと愛、救い、神様の御言葉、祈り、伝道、聖霊充滿のような信仰の基本土台にはきちんとせず、何かはこれだけでは足りないようにもっと刺激的で、神秘的な何かを求め、経験したがりです。

しかし、神様の言われている武具というのは特別な何かの新武器ではないと申しました。軍人にとっては基本武装が大切であるように、信仰生活においては基本的な信仰生活に充実することこそが大切だということを強調しました。神様は私たちが霊的戦いにおいて日々勝利し強き者になるために何か新しい信仰の方法や特別な秘訣があることを教えようとはしません。多くの人々が霊的に失敗し、信仰が弱まってくる理由は信仰の高いレベルになれなかったわけではなくこのクリスチャンの基本武装、つまり基本的な信仰の土台がきちんとできていないためであることを私たちは覚えなければならないことを強く申しました。

<2. 本論>

それでは今日の本文にもう一度戻ってみましょう。エペソ6:14の前半を見ると、“では、しっかりと立ちなさい。腰には真理の帯を締め”だと語っています。いったいなぜ使徒パウロは武装されたローマ軍人を見ながら、霊的戦いにおいて一番初めに真理の帯をしめるようにとしたのでしょうか。腰は私たちの体全体を支えてくれる主軸のような役割をするので、力の根源だと言えます。それに帯を締めると腰をしっかりとささえてくれることによって、あらゆる行動や働くときには安定を維持してくれます。

実際にローマ軍人の腰の帯はとっても大切でした。当時ローマ軍人は腰に幅が広い帯を締めたそうです。そこにはたくさんの武器を入れたり、自分の非常食糧をも入れたそうです。そして戦うまでには武装されたのがきちんとできていたのか、もしくは戦いの際にさまたげにならないようにと帯をしっかりと締め、そして帯の中にある補助武器などももう一度確かめます。つまり、もう戦う準備を整え、これから戦うために力をあわせ集中します。想像できるでしょうか。

結局、軍人が腰の帯を締めるというのは、これから本格的に戦いに向けて備えるという意味であって、軍人として目の前にある戦いのみにひたすら集中する意味でもあります。信仰的にも同じです。真理の帯を締めるというのはこれから霊的戦いにむけて一心の心で、ひたすら焦点をおいていくことだと言えるでしょう。第一ペテロ1:13はこれと似たような箇所です。“ですから、あなたがたは、心を引き締め、身をつつしみ、”だと書かれています。ここで‘心を引き締め’と‘身をつつしみ’は同じ意味です。これから心一つにして神様に用いられるために準備するという意味で‘心を引き締める’言い方をしたのです。

結論から言わせてみると、軍人がこれからの戦いに戦って勝利するために腰の帯をしっかりと引き締め、心をも備え、戦うことに集中できるように、万全の装置をするということでしょう。霊的戦いにおいても打ち勝つためには真理の帯をしっかりと締めなければなりません。このように我々も常に霊的勝利の得るため一番のやるべきことは私たちは真理であるイエスキリストだけを心にいだき、ひたすらイエスキリストに集中しなければならないということです。ただ真理であるイエスキリストだけを私の人生の主人として受け入れることです。ひたすらイエスキリストだけを見上げ、イエスキリストだけに集中する人生を送ることです。

今日多くのクリスチャンたちの問題は何ですか。イエスキリストを信じていると言いながら実際の生活の中では“主だけを見上げます。”ではなく“主をも見上げます”ということです。どういう話か理解できますか。イエスキリストを自分の人生の唯一の導き手の主として、神様だけを頼っていきながら、悩み事がやってきたり、忙しい生活になったりすると心は分かれてしまいます。イエス様に対する焦点がぼけてしまいます。イエス様だけではなくイエス様も半分たより、自分自身も半分頼り、人も頼り、お金も頼り、ほかのものにもたよってしまいます。

みなさん! 一度考えてみてください。今日の前にある軍人が戦いには集中せず、ほかのところにもまなざしが向いているのであれば、いくらすばらしい武具とすばらしい戦略をもっていたとしてもその戦いで勝つことができるでしょうか。実際、ベトナム戦争の時にも、韓国戦争の当時にも相手の軍人の集中力と意欲を喪失させるのに用いられた一つの方法がありました。例え、一般庶民の母親や妻、家族の人たちがスピーカを通して声を流します。“戦争中は大変ではないか、家族たちには会いたくないのか。こちらは会いたいよ”と。すると相手の軍人たちは戦争に集中できず、しばらくさまざまな考えに入り込んでしまいます。そして“もう戦おうとしても今の常態はもう無理だから。戦争で勝つよりはあなたの命が大事である”言いながら降参(こうさん)するようにとすすめます。これが兵士たちのしきをくじく戦略です。信仰の生活においても一緒です。霊的戦いにおいて敗北と落胆に陥て日々をすごしているではありませんでしょうか。霊的戦いで勝利するためにはどこからもう一度初めるべきでしょうか。そうです。もういちど“single focus”をあわせることです。あちこちむいていた自分のまなざしをもう一度イエスキリストに固定させることです。もう一度イエスキリストにまなざしをたてて集中することです。

<3. ひたすら真理の帯であるイエスのみを見上げた人たち>

今日御言葉を記録した使徒パウロの働きの核心、働きの力は何でしたか。彼はただ一つ神様だけを追い求めました。ピリピ人へ

の手紙3:13-14節をどなたか読んでくださいますか。“兄弟たちよ。私は、自分はずでに捕らえたなどと考えてはいません。ただ、この一事に励んでいます。すなわち、うしろのものを忘れ、ひたむきに前のものに向かって進み、キリストイエスにおいて上に召してくださる神の栄冠をえるために、目標を目ざして一心に走っているのです。”だと告白しました。

パウロは最後まで、ただ一つだけを目指して走ってきた人生だったため彼は強かったです。彼は当然勝利の人生を送ることができました。一言で、パウロの人生は神様の武具で説明するなら、真理の帯をしっかりと引き締めた人生だったと言えるでしょう。神様にとうとく用いられた数多くの人々はとつても単純な人生を過ごした人たちでした。ただイエスを見上げるそのまなざしから一生離さなかった人たちでした。忙しい時も、疲れた時も、悩む時も、苦しい時も、イエス様だけを信頼し、ただイエス様だけを抱いて生きた人たちでしたためむしろこの世が彼らに打ち勝つことができませんでした。

愛する聖徒のみなさん!私たちが生きている間、私たちはたくさんのころみに会うでしょう。悪魔がくれる様々な試みと誘惑、攻撃があります。ところが、悪魔が私たちを試みる根本的な目的は何だと思えますか。それはただ一つ! 神様だけを! イエスキリストのみを! 見上げようとする私たちの信仰と心を散らかしてわかれさせるためのことです。

マタイの福音書4章を読んで見ますと、荒野でイエス様の40日間の断食の祈りをされた直後サタンは肉体的に疲れ、弱くなっていたイエス様にその瞬間を狙って試みました。その時、サタンが願ったことは何だったと思えますか。これから公に働かれようとしているイエスさまの十字架の道に進めないように、そしてその主の使命と心をも分かれさせるためでした。イエス様にでさえいつこころみを与えたサタンであるならば今日の私たちにはなおさらではないでしょうか。

おぼえてください。悪魔の試みの特徴はいつも同じです。それは分かれさせることです。今日サタンが家庭に与える攻撃は何ですか。夫が妻から、妻が夫から心が分かれ、離れ家庭が崩れるようにしようとしています。教会の礼拝の時にもしきりに変な考えなどで集中できないようにと邪魔します。信仰の生活をしている人々には一つの教会には満足せず、二つ、三つの教会に通いながら信仰の根をおろすことができないようにさせます。そしてそれだけではなく、教会員の間で分裂を起こし教会自体を分かれさせようとする場合もしばしばです。クリスチャン同士の心が分かれ、互いに愛し合えないように、そして互いに仕えあえないようにと、そして神様だけを、イエスキリストのみを見上げることができないようにと試みるこれがまさにサタンの今日の重要な戦略なのです。これをいつも忘れないで下さい。ですから、我々がお互い噛み合ったり、けんかしあったり、してはいけません。葛藤がある時こそ、もっと一つになって祈り合い、補い合ってもっとイエスキリストにあって一つの愛と信仰に専念していかなければなりません。

< 4. 神様のすべての武具はイエスキリストの御名で通じる! >

実際神様が教えてくださる今日の本文の神様のすべての六つの武具についてよく考えて見てください。すべてがイエスキリストにつながり、通じているのではないのでしょうか。真理の帯で真理というのはだれですか。イエスキリストではありませんか。イエス様は“イエスは言われた。“私は道であり、真理であり、命なのです。(ヨハネ14:6)”と言われました。真理はイエスキリストです。二つ目は正義の胸当てです。正義は誰を意味しますか。イエスキリストです。罪人である私たちから出た正義ではありません。イエスキリストが十字架で流した血潮が私たちの罪を覆われるときこそ私たちは義とされるのです。この義というのはイエスを信じる者たちに与えられる神様からのプレゼントなのです。三つ目は“平和の福音のそなえ”です。ここで福音というのはどんな福音ですか。イエスキリストが真の唯一の救い主として、私たちの罪のために苦しめられ、死なれ、復活された救いと救いのお知らせです。そして天に昇られたイエス様はやがてふたたびこられるということです。この福音にあずけられている人たちは日々平和を保ちながら生きることができます。人々がこの平安を味わえない理由はキリストの福音の中にとどまっていなかったからです。四つ目は信仰の大盾です。私たちの信仰の対象はだれですか。イエスキリストのほかにはいません。信仰というのはイエスの主権に私たちのすべてをゆだねること、それが信仰ではありませんか。救いのかぶとも同じです。私たちが救ってくださった方はイエスキリストです。だれであっても、どんなにひどい罪であっても、イエスキリストを信じる者たちには神様の救いが与えられると約束されました。最後に六つ目は御霊の剣、つまり神様の御言葉です。ヨハネ1:1-2節で“初めに言葉があった。ことばは神とともにあった。ことばは神であった。この方は初めに神とともにおられた。”と知るされています。このことばは人間の形になられ人間の地に現れましたが、この方がまさしく神の御子イエスキリストなのです。

神様のすべての武具というのは今申し上げたとおりイエスキリストをしっかりとぎって、イエスキリストを中心に、イエスキリストから初め、イエスキリストで終わることを意味します。イエスキリストこそが私たちの霊的勝利の根源であり、すべての能力と力の源であることを信じてください。ですから、私とみなさんがイエスキリスト充滿な生活を送れば、サタンは私たちを支配することは不可能です。使徒の働き3章でイエス様の弟子であったペテロとヨハネは40年間の間、生まれつきの足のきかない男に“金銀は私にはない。しかし私にあるものを上げよう。ナザレのイエスキリストの名によって、歩きなさい。”と言い伝えました。

< 5. 結論 >

メッセージを終らせたいと思えます。愛するクリスチャンプレイズチャーチのみなさん。今日、日常の激しい霊的戦いにおいて勝利するために真理の帯を締めるというのはつまり、真理そのものであられるイエスキリストにかたく立てひたすらイエスだけを抱き、イエスだけを見上げ、イエス様に集中する人生を送ることであることだと分かりました。家を建てる時礎を岩の上に立てると洪水がなりあらしがきてもその家は崩れることがないように、私たちの信仰の生活においても岩なる'イエスキリスト'だけをたより、キリストに堅く立ていれば悪魔のどんな誘惑にも、攻撃にもまけることはありません。敵のどんな策略にもイエスキリストの御名を信じ、立たせ、その御名によってしっかりと生きて行こうとする人々の人生は決して揺るがなく、霊的な力が与えられ打ち勝つことができます。もう一度改めてあらゆる力の根源であるイエスキリストの帯をしっかりと引き締めてみませんか。

今みなさんと私はどうですか。いつ火のような猛烈な霊的戦いが始まるかわかりません。しかしすでにイエスキリストによる勝利を得るために今みんなもう一度イエスキリストの真理の帯をしっかりと引き締めて歩める愛するクリスチャンプレイズチャーチの全信仰の家族となりますように主イエスキリストの御名によって祝福し、お祈り申し上げます。アーメン!